

「河和田アートキャンプ」に見る、 大学生と地域の関わり方

河和田アートキャンプ事務局 西馬 晋也



はじめに

2004年に起きた福井豪雨の災害支援活動をきっかけとして始まった「河和田アートキャンプ（以下AC）」は、今年で14回目の開催を数えます。この活動

は大学生という本来地域と短期的な関わりしかできない存在とともに、中長期的な「まちづくり」をイメージしながら実践している活動です。



毎年100名近くの大学生が河和田を訪れる

福井県鯖江市は、めがね・繊維・漆器を地場産業に持つものづくりのまちです。特に、ACの舞台となる河和田地区は市内におけるめがねの発祥地であり、

また、1500年の伝統を有する越前漆器の産地です。しかし昨今、ものづくり産業を取り巻く環境の変化により、景気は低迷し、河和田地区の人口は、昭和52年の5959人をピークに平成30年2月の段階で、4200人と減少を続けています。高齢化率は上昇し、一人暮らし高齢者世帯や空き家の増加など、大きな課題を抱えています。

このような全国の中山間地域が抱える課題に対し、ACは大学生が地域住民とともに課題解決を行うというアプローチをしてきました。その取り組みのポイントを2つに絞って紹介します。

① 地域住民をサポートする若者の存在

参加者は関西の芸術系大学生を中心に毎年100名近くの若者たちが河和田に集い、過去13年間の参加者は累計で47大学延べ1458名となりました。参加を希望し集まった段階ではほぼ全員が河和田との縁は無いため、河和田の「まちづくり」をするために集まっているのでは

ありません。参加者にとっては「地域生活×アート」をテーマにした芸術活動が動機となっています。

地域住民は各々が直面している地域課題を若者たちに伝え、若者たちは課題解決に向けた創作活動案を地域住民にプレゼン、地域住民は案に対してアドバイスをし、ということを繰り返し、徐々に活動内容を固めていきます。どちらも妥協することなく協議を重ねることで、地域住民の持つ知識や経験、問題意識と、

若者の柔軟な提案や行動力により、ACの活動は出来上がりま

す。若者は発信力に優れています。河和田での活動の様子



活動内容について、何度も議論を重ねる

を発信し、別の地域の誰かがその様子を閲覧する。その繰り返しにより河和田地区の認知度は高まり、河和田のファン獲得にも貢献しています。さらに今後の活動における参加者の確保にも繋がります。発信の積み重ねが、今や地域に欠かせない要素であると考えられます。



学生の興味と地域の課題を掛け合わせたプロジェクトの一つ「地酒開発」

13年間の活動の中で、地域住民にも変化が表れています。2010年には「学生任せではなく、地域住民が立ち上がりなければ」という声から、地域住民が主体となった「河和田くらしの祭典」という地域観光イベントがスタートし、河和田の自然・歴史・伝統・文化等の資源を最大限に活かし、魅力を発信し続けています。

② 20カ年の計画

ACが目指す未来は卒業生との再協働というビジョンです。この計画では、学生時点での活動を地域活性と結びつけるのではなく、参加者と地域住民との信頼関係構築の過程を優先します。ACに参加した経験により個人的な人間関係を構

築したことが、若者にとつての「心のふるさと」創出に繋がるからです。それは10年、20年と時を重ねることで、地域への貢献に繋がっていきます。

現在、卒業生が続々と30代になり、多種多様な職種の中核人材として社会を担い始めています。その中で「心のふるさと」である河和田地区へ、何らかの形で貢献しようとする人材も出てきています。実際に、ACの卒業生が「TSUGI」という法人を河和田地区で設立しました。魅力的な雇用を生み出し、商品と共に地域の魅力を発信する企業形態で、福井県内でも屈指の若手事業者として注目を集めています。他にもACがきっかけで移住した参加者は累計で23人にのぼり、毎年数人ずつですが河和田に住み始めています。



TSUGI発足時の新聞から

個人同士の関係で例を上げると、移住して地域の一人暮らしのおばあちゃんと共同生活を始めた者もいます。そのおばあちゃん「こうやって人を育てること

が一番のまちづくりであり、若者と同居することは福祉である」といいます。ACの経験から、友人関係や近所付き合いを超えた地域住民との深い関係性が生まれています。



大きな古民家で共同生活をしている

人材育成のプラットフォームとして

前記のように、ACの活動は非常に実験的な活動であり、全国的にいち早くアートを活用した地域づくりや滞在型活動の原型をつくり、人の成長と共に力をつけていく「鈍速力」という考え方を採用しながら進んできました。その結果、ACから輩出された人材は全国のまちづくりの現場で活躍しており、また企業に勤めながら自身が所属するコミュニティを盛り上げるなどの動きを見せています。ACは参加者が卒業してからも、それぞれの仕事や活動に加え当たり前のようにコミュニティを意識し、これからの社会を考えられる人材を輩出するエンジンとして機能していきたいと考えています。